

	実態と課題	授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・長音、拗音、促音、撥音などの表記について多くの児童が正しく書くことができているが、作文を書く際に「ちよつと」「しゅうじ」などの書き間違いが見られる。 ・第1学年・第2学年に配当されている漢字を多くの児童が書くことができ、文や文章の中で使うことができている。平仮名や片仮名も含め、丁寧に書くことに課題のある児童が見られる。 ・話す事柄の順序を考えて、行動したことや経験したことを話すことのできる児童は多いが、話の内容を落とさないように集中して聞き、相手の発言を受けて話をつなぐことについては個人差が大きい。 ・自分の思いや考えが明確になるように書くことに課題のある児童が見られる。「何を書いたらよいか、わからない」ということがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音読しながら正しい読み方を身に付けることができるようにMIMなどを活用する。作文では丁寧に書き直し、正しい書き方になるようにする。 ・漢字ドリルや漢字ノート、小テストを活用した継続的な指導を通して、配当漢字の確実な習得をめざす。点画の書き方や文字の形については、手本をなぞるように支援する。 ・ワークシートなどを活用し、相手の話を聞くときに、事柄の順序を意識しながら聞くことができるようにするとともに、活動の前に自分が聞きたいことを明確にできるようにする。 ・構成を考えることによって自分の考えが明確になるようにする。時間の順序や事柄の順序を考えることができるように表にまとめるようにしたり、カードを用いて、分類したりしながら考えることができるようにする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・2位数の加法や減法の計算についての理解の差が大きく、つまずきのある児童が見られる。第1学年で学習した1位数と1位数の加法や減法の習熟や、筆算の仕方についての理解が十分でない。 ・長さやかさについて、およその見当をつけ、単位を適切に選択することについて個人差が大きい。「～分後の時刻」や「～時間、～分」を計算で求めたりすることに課題のある児童が多い。 ・文章問題の題意の読み取りが不十分のため、立式や計算、答え方に誤答がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数の時間や家庭学習を通して、既習の内容を振り返り、繰り返し学習する時間を設定する。計算カードの音読や、一人一台端末を用いたドリル学習を行う。また、習熟度の差に応じてどの単元から振り返るのがよいか助言・支援を行う。 ・10のまとまりなどの数の感覚を身に付けることができるよう、必要に応じて百玉そろばんなどの具体物を用いて計算の練習をするようにする。 ・基礎的・基本的な内容を確実に身に付けるようにし、繰り返しの学習で定着を図るようにする。 ・正しい量感が身に付くよう、実際に見て、触れて、感じるなどの体験的活動を取り入れる。 ・日常生活に根ざした長さやかさ、時間を活用する場面を見出し児童に見いださせるなどして、問題解決への必要感を高める。 ・文章の中のキーワードとなる言葉に線を引かせたり、図をかかせたりすることで、立式がスムーズに行えるように支援する。 ・少人数グループや、全体での発表や共有する活動を取り入れ、より多くの考えをもたせる。
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での生活が様々な人や施設と関わっていることに気づき、学校の施設の様子、学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子などの関わりを通して、その安全を守っている人々について考えることのできる児童を増やしていく。自分の生活について考えたり、表現したりする力の個人差が大きいと感じる。 ・体験や経験を通して、様々なことに気づく児童が増えてきたものの、知的な認識にまで到達することができない児童もいる。 ・生き物や野菜を育てる活動に積極的に取り組む児童が多いが、活動を通しての気づきや学びをさらに深めていけるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校探検や町探検などの活動を通して、施設や設備の様子を十分に捉えるとともに、校内にいる人や通学路の安全を守っている人々にあいさつするなどして交流の輪を広げる活動を設定する。 ・児童の学校生活と、学校に関わる人の仕事との関わりを考え、その意味や価値が分かるようにする。教職員に感心をもって関わろうとしたり、思いや願いをもって施設を利用したり、ルールやマナーを守って安全に登下校したりできるようにする。 ・小さなつぶやきや観察カード等に見られる気づきのサインを見逃さないようにする。また、友達の気づきを紹介し合うようにする。 ・一人ひとりの考え方を大切にし、他の児童の考え方との違いに気付かせるようにする。 ・活動での役割を一人ひとりがもち、集団の一員としての意識を育めるようにする。 ・気づきの発信の仕方を工夫し、みんなに知ってもらいたい気持ちを引き出せるようにする。

音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・鍵盤ハーモニカの演奏技能に個人差が見られる。タンギングの技能が身に付いていない児童が数人いる。 ・曲想に合わせて、豊かな表情で歌う児童が多くいる。 ・ボディパーカッションの学習では、手拍子と足踏みを経験した。一定の速度でリズムを合わせて演奏できる児童が多くいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鍵盤に音名のシールを貼ったり、指使いを示したりして、個別指導を繰り返す。階名唱も取り入れ、音階を意識させる。また、個別指導の時間をできるだけ確保する。 ・素敵な表現をしている児童を具体的に褒め、友だちのよい部分を認め、共に学んでいく雰囲気をつくっていく。 ・歌唱用の曲にも簡単なリズム奏や打楽器による合奏をつけ、様々な楽器に触れる機会を引き続き増やしていく。 ・協働的な学習や個別最適な学習をおこなえるよう、学習の形態を工夫する。
図工	<ul style="list-style-type: none"> ・材料や用具に関心を持ち、身体感覚を働かせながら意欲的に活動に取り組むことができるが、個人差がある。 ・進んで友達作品を見てよさを発表したり、自分の作品のよさを伝えたりすることを楽しむ姿が見られる。 ・準備、片付けの場面でそれぞれの班で係りを設け、自分の係りを進んで行う児童が多く、班での協力が定着してきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料、用具との出会いの時間を十分に確保して慣れさせ、自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付かせる。気付いたことを発言することで、自分の気付きに自信をもたせる。 ・鑑賞タイムなどを積極的に活用し、友達のよさを直接相手に伝える機会を多くもち、互いのよさや違いを認め合える場として行い、自己肯定感を高める機会とする。 ・準備や片付けに責任をもって一生懸命取り組んでいる児童を見逃さず、褒め、励ます。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かす楽しさや心地よさを味わう経験が不足している児童が見られ、個人差は大きい。 ・きまりを守って誰とでも仲よく運動したり、勝敗を受け入れたり、場や用具の安全に気を付けたりすることに課題のある児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・のびのびと体を動かしながら、様々な基本的な体の動きを身に付けることができるようにする。例えば、新聞紙やテープ、ボール、風船、フープといった操作しやすい用具などを用いた運動遊びを行う。友達と関わり合い、自己の心と体の状態に気付くことができるようにする。 ・友達と楽しく運動することが苦手な児童には、友達とハイタッチや拍手で喜びを共有するなど、共に運動遊びをする楽しい雰囲気を実感できるよう配慮する。 ・場や規則が難しいことで、活動に意欲的に取り組めない児童には、場の設定やきまりを易しくしたり、行い方や課題を絵図で説明したりする。 ・ゲームに勝てなかったり、鬼に捕まりやすかったりするなどでゲームや鬼遊びに意欲的に取り組めない児童には、勝敗を受け入れることが大切であることを話したり、安全地帯などきまりの設定を工夫したりする。